



街あるつく田原 ook田原

街あるつく田原 | 第43号
平成30年3月15日(木)

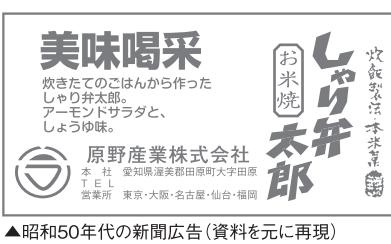


まちなか回顧録 その 4

三河田原駅前が 生まれ変わります！

●田原駅前通り線開通と 三河田原駅前周辺の歴史

三河田原駅前には昭和22年から続
く、水あめ、でんぶん、果糖など製菓
原料を主体に製造する原野産業の本
社工場がありました。昭和50年頃に
はコメでつくりたせんべい「しゃり
弁太郎」というヒット商品を生み出
し、派手なテレビ宣伝とユニーク
な商品名で爆発的に売れ、急成長



▲昭和50年代の新聞広告(資料を元に再現)

円をかけ工場を拡大しましたが、
ブームの去るの

は早く、販売の落ち込みや投下資金の負担、冷夏による清涼飲料原料の販売不振などが加わって、急速に経営が悪化、その後、一村化学工業所(現フタムラ化学株式会社)が三河田原駅前の原野産業工場を引き継ぎました。

平成20年に田原市緑が浜にフタムラ化学・田原開発センターができた

ことにより、三河田原駅前の工場の可動・操業がなくなり、平成26年12月、田原市土地開発公社と三河田原駅前のフタムラ化学工場跡地の売買契約が締結されました。

●エンタランス核と 位置付けられる駅前周辺

中心市街地活性化の方針(基本的
方向性)の中で基本構造・ゾーニン
グとして、田原駅通り線及び、はな
とき通りを「南北中心軸(シンボル
ロード)」、田原中央線を「東西中心
軸」として中心市街地の骨格軸とし、
主要な施設周辺をそれぞれ機能別の
核として位置づけ、特に三河田原駅
周辺については、駅及び駅前広場を
「公共交通核」、現在工事が進められ
ている先記、三河田原駅前工場跡地
は「エントランス核」とし、まちなかの
賑わいづくりが進んでいます。

中心市街地内は9つに区分され「ま
ちなか賑わいエリア」「まちなか賑わ
い・居住エリア」「沿道賑わいエリア」
「まちなか居住エリア」「文化・福祉工
業」「歴史・教育エリア」「福祉工
業」「防災・公共サービスエリア」そし
て、三河田原駅を中心とした「市民・
来訪者交流エリア」が今年6月につい
に生まれ変わります。



渥美半島の玄関口、人々が行き交う「三河田原駅」

田原中心市街地のエントランス核としてのこれから役割と歴史



愛知県最南端の駅

渥美電鉄の田原駅としての歴史がスタートしたのは1924年（大正13年）、翌年から「三河田原駅」と改称しました。その後、1954年（昭和29年）三河田原駅より先にあつた黒川原駅が廃駅となり、愛知県最南端の駅「三河田原駅」として田原市民はわざわざ田原に来訪

する人々、また駅に隣接する渥美方面に向かう豊鉄バスを利用する観光客などを出迎える歴史のある三河田原駅に注目。2013年（平成25年）で4代目になった駅舎とともにこれから賑わいの拠点の一つとなる三河田原駅の移り変わりの歴史をご紹介します。



歴史は90年を超えて、渥美半島を縦貫する鉄道として計画され、1921年（大正10年）に渥美電鉄に対し豊橋市大字花田一渥美郡福江町間の軌道敷設特許状が下付され、師団口（のちの高師口）～三河田原間が1924年（大正13年）に開業しました。渥美電鉄・名古屋鉄道が経営し、途中で国営化される可能性もありましたが、国内情勢などにより断念。名古屋鉄道より昭和29年豊橋～三河田原駅間が豊橋鉄道へ譲渡され、豊橋鉄道渥美線として現在に至ります。

歴史は90年を超え、渥美半島を縦貫する鉄道として計画され、1921年（大正10年）に渥美電鉄に対し豊橋市大字花田一渥美郡福江町間の軌道敷設特許状が下付され、師団口（のちの高師口）～三河田原間が1924年（大正13年）に開業しました。渥美電鉄・名古屋鉄道が経営し、途中で国営化される可能性もありましたが、国内情勢などにより断念。名古屋鉄道より昭和29年豊橋～三河田原駅間が豊橋鉄道へ譲渡され、豊橋鉄道渥美線として現在に至ります。

鉄道路線の歴史



清谷川上空に泳ぐ たくさんのこいのぼり

今年も街なかで桜の開花とこいのぼりを同時に見られると評

判のイベント、田原駅南公共駐車場南側でたくさんの「こいのぼり」がお目見えします。イベントに使われる「こいのぼり」は、田原市内の皆さんの寄付によるもので、今年で6年目になります。駅の近くにお越しの際は、ぜひご覧ください。設置期間は、3月24日㈯から5月13日㈰予定。

● 主催／まちなか賑わいづくり
実行委員会

まちなかイベント情報 こいのぼりイベント



●初代
三河田原駅



●二代目
「三河田原駅」



戦後を経て平成6年まで最も長い歴史のある駅舎。まちなかの商店街の上町通りが駅前通りにつながっていたこともあり、三河田原駅からまちなかへと続く「駅前通り」は多くの人々が行き交いました。



1957年(昭和20年代後半)～1994年(平成6年)

●三河田原駅の豆知識

戦後～伊良湖観光ブームで乗客増大

※2代目の駅舎は建替時期不明



昭和9年／『渥美郡総覧』より



城下町の田原のまちなかから少し離れた水田の中に建てられました。資料や当時を知る人の話によると水色の建物で、洋風な印象を受ける駅舎。戦時中は多くの出征する若者を見送った。



1924年(大正13年)～1957年(昭和20年代後半)

●三河田原駅の豆知識

約1年間は「田原駅」として開業

「田原街なか中心市街地」と「三河田原駅」の歴史

田原駅前通り線の開発に伴う三河田原駅とその周辺の様子

●三代目
三河田原駅



●四代目
「三河田原駅」



線路の北側にあった駅舎が、田原駅前通り線を面するように西側に移動し、鉄骨2階建ての構造になりました。駅舎の半分は田原市の交流スペースとしてまちなか賑わいづくりの一役を担っている。



2013年(平成25年)～

●三河田原駅の豆知識

設計は世界的建築家の安藤忠雄建築研究所



平成6年／豊橋鉄道蔵



わかしゃち国体の開催に合わせて建てられました。田原駅前通り線の開発によって現在の駅舎に移動するまでの19年間、多くの乗客の往来を見守りました。左の写真は四代目への移転工事の時の様子。



1994年(平成6年)～2013年(平成25年)

●三河田原駅の豆知識

1999年9月第1回中部の駅百選に選定

●主催／まちなか賑わいづくり
実行委員会

毎年、たくさんの桜が咲き乱れ、多くの花見客で賑わう清谷川沿いの桜（田原福祉センター前）のライトアップを開催。昼間の暖かな日射しの中で見る桜と一味違うライトアップされた桜を楽しんでみてはいかがですか。

点灯は、3月21日㈬から4月8

日㈰の午後5時～午後10時。昼間

は春の散歩がてら、夜は幻想的な桜見物に足をお運びください。

街なかで春を感じるひと時
雰囲気の違う桜を満喫！

まちなかイベント情報 桜のライトアップ



街なかの元気印、発見！

田原のまちなかで全国のおいしいお米を… 店頭でお客様のお好みに精米致します。

うえふじ
上藤 裕子さん
ひろこ

■ 上藤裕子さんの生い立ち

田原市新清谷で「お米工房こめっと」を切り盛りする上藤裕子さんは、安城市で生まれ育ち、高校卒業を機に父の実家である豊橋市大清水町に引っ越してきました。その後、短大を卒業し、豊橋市内の幼稚園で4年間勤め、24歳で「主人」と結婚しました。すぐ、「家業に従事すべし」という



お。平成6年に現在の新清谷に移転し、現在は米穀販売だけではなく、クロークの取次や灯油販売も行っています。

裕子さんが来たばかりの頃は、お米の種類も「シロカツ」とか「ニシキシカヌベ」「ごつゆのね米をお願いします」と電話で注文を取扱い、家庭に届けられたのがはじまりで、地域の皆さんから愛されていました。お米屋さんを田舎つたじと感じて、地域の皆さんから愛されるお米屋さんを田舎つたじと感じます。

■ 地域との関わりあり



何やわかのあ」と、田原に嫁さんをしたが、地域の行事に参加させてもらひ、人とのつながりを築いていますが、でも、楽しげに過ごしてしまった。それからも、感謝の気持ちを忘れず地域の皆さんと助け合ひながら、健康で働き続けたことが明るい想いでした。

次回も田原のまちなかの身近なお店の素顔を紹介します。

住 田原市田原町新清谷47-5
電 0531-22-0461
営 8:30~19:30
休 毎週日曜日
P 5台

ほんとうでした。布袋にお米を入れて配達し、他の家の米ビツに付けていた事もありました。平成に入ってからは、徐々に、店頭販売が多くなり、スーパーや量販店等に仲卸しするようになります。

■ 理想の店づくり

お米の専門店として、全国各地のお米の品揃えを充実させ、店頭で精米也可以いじりで白米だけではなく、玄米や五分つきを提供するなど、差別化してこそきっと勝ち立てるのです。そこで、ひとの舌味で、俗語を大切にして、地域の皆さんから愛されるお米屋さんを田舎つたじと感じます。

今、特に注目するのは「ハハハ」は、新潟産の「新之助」です。「新之助」は大粒できれいなつやがあり、ほんのりと良い香りがあるお米です。甘みとコク、味の厚みが豊潤なおじつを醸し出します。

■ 一冊のお米

平成30年3月15日号 **街Cook田原**